

令和6年度
市民活動支援事業
成果報告書

はじめに

「霧島市市民活動支援事業」は「共生・協働のまちづくり」の一環として、市民活動団体が行う公益的・公共的な活動に対して経費の一部を補助することにより、様々な市民活動を支援する制度です。これまでに延べ174団体が活用し、令和6年度は8団体が本制度を活用して様々な活動に取り組みました。

この「令和6年度市民活動支援事業成果報告書」は、事業の活動内容や成果等を広く周知し、今後の市民活動の参考にしていただくことにより「共生・協働のまちづくり」が本市全体に広がることを期待して取りまとめたものです。

〈 参 考 〉 令和6年度 霧島市市民活動支援事業応募・採択内訳

【選考審査の結果】

区 分	応 募	採 択	※実 施
団 体 数	9団体	9団体	8団体
N P O 法 人	0団体	0団体	0団体
その他の団体	9団体	9団体	8団体
事 業 数	9事業	9事業	8事業

【分野別内訳】

分 野 別	応 募	採 択	実 施
保健・医療・福祉	1	1	1
国際交流	1	1	1
学術・文化・芸術・スポーツ	2	2	2
環境保全	1	1	0
まちづくり	1	1	1
社会教育	1	1	1
子どもの健全育成	1	1	1
農山漁村振興	1	1	1
合 計	9	9	8

目 次

(団 体 名)	(ページ)
1 全国ギャンブル依存症家族の会鹿児島	1～ 2
2 浜田到を語る会（暁の会）	3～ 4
3 霧島ミュージックフェア実行委員会	5～ 6
4 永山農業クラブ	7～ 8
5 きりしまにほんごきょうしつ	9～10
6 Awesome City Project	11～12
7 0歳からの音楽会in霧島	13～14
8 ぱんげあ Project	15～16

＜ 参 考 ＞ 各団体の補助額等について

目次 番号	事業名	事業費	補助額
1	ギャンブル依存症予防・啓発事業	500,059 円	250,000 円
2	浜田到顕彰啓発事業	280,564 円	100,000 円
3	霧島ミュージックフェア事業	95,666 円	47,000 円
4	農業クラブによる山間地域活性化事業	180,332 円	86,000 円
5	霧島市の多文化共生の推進に関わる事業	457,352 円	157,000 円
6	くらしと、霧島と、事業	220,274 円	110,000 円
7	0歳からの音楽会in霧島事業	380,648 円	166,000 円
8	子ども達が自ら考え創造する学びの場づくり事業	119,374 円	54,000 円
合 計		2,234,269 円	970,000 円

事業費：500,059円 市補助金：250,000円

<セミナーの様子>



<家族の会>

NPO法人全国ギャンブル依存症家族の会 第7回総会記念セミナー in 神戸

ギャンブル依存症 どうなる!? オンラインカジノと スポーツベット

2024 **9.15** 日 13:30~16:30
神戸国際会議場 ポートライナー階底階地下楼2F
(神戸市中央区東ふもと1-1)

参加無料 予約不要 保育あり・要予約

セミナープログラム

- 講演
- 家族の体験談
- 当事者の体験談
- ゲストと講師によるトークセッション

講師・ゲストプロフィール

司会 田中 雄 氏
田中さんは「アール・オブ・ギャンブル」の著者で、ギャンブル依存症の専門家として活躍中。本書はギャンブル依存症のメカニズムを詳しく解説し、家族のサポート方法も紹介されている。

講師 松本 孝 氏
松本さんは「ギャンブル依存症」の著者で、ギャンブル依存症の専門家として活躍中。本書はギャンブル依存症のメカニズムを詳しく解説し、家族のサポート方法も紹介されている。

講師 田中 雄 氏
田中さんは「アール・オブ・ギャンブル」の著者で、ギャンブル依存症の専門家として活躍中。本書はギャンブル依存症のメカニズムを詳しく解説し、家族のサポート方法も紹介されている。

お問い合わせ・保育申込
お問い合わせ: 080-3830-1801 (おくだ) kazukai.hyo@gmail.com
保育申込期限: 8/15 (木) お子様1人5,000円、2人目以降1人につき3,000円
※先着50名。定員に達した時点で締め切らせていただきます。
主催: NPO法人全国ギャンブル依存症家族の会・全国ギャンブル依存症家族の会兵庫 後援: 兵庫県 (2024/8)

ご家族のギャンブルの問題で悩んでいませんか?

ギャンブル依存症はWHO(世界保健機構)で認定された病気です
一人で抱え込まず、共に対応の仕方を学びましょう

全国ギャンブル依存症家族の会 鹿児島

この家族の会では・

- ご家族のギャンブルの問題で困っている方
- ご家族が現在、依存症回復施設に入寮されている、これから入寮を考えている方
- ギャンブル依存症について詳しく知りたい方など、どなたでも参加していただけます
(秘密は厳守されます)

毎月 **第2土曜日** 14:00~16:30 (受付 13:30~)

会場や時間変更についてはホームページでご確認ください

場 所 霧島市国分公民館 (霧島市役所シビックセンター3F)
霧島市国分中央3丁目45-1

参加費 1名 1,000円

お問合せ ☎ 090-6298-2275 (本田)
gdfam.kagoshima@gmail.com

初めて参加される方は問合せの方からご予約をお願い致します

保育をご希望の方は1週間前までに電話にてお問合せ下さい

● 当事者の会 同時開催 (奇数月)
公民館別室にて、当事者会を開催します 【参加申込不要・参加費無料】

NPO法人 全国ギャンブル依存症家族の会
☎ 090-1404-3327 <http://www.gdfam.org/>



団 体 情 報

<団体名> 全国ギャンブル依存症家族の会 鹿児島

<代表者> 松元 英雄

<設立日> 令和3年12月19日

<会員数> 7人

<主な活動>

ギャンブル依存症者の家族の支援及び、依存症に関する勉強会、啓発活動、予防教育、情報提供などの活動を行う。

<連絡先>

所在地 〒899-6507 霧島市牧園町宿窪田169-16

TEL 090-1089-4147

浜田到顕彰啓発事業

<浜田到を語る会（暁の会）>

事業費：280,564円

市補助金：100,000円

目 的（背景・課題）

1. 浜田到の短歌についての研究

浜田到の歌については、著名な短歌編集者中井英夫など多くの人から高い評価を受けているが、内容が難解である。

こうしたことから、当会の中に「浜田到研究専門部会」を設置し、浜田到の歌集や浜田到に影響を及ぼしたと言われるリルケ、浜田到とともに前衛歌人として活躍した塚本邦夫、寺山修司、岡井隆の歌などを調査し、結果をまとめていく。

2. 会員及び一般市民等を対象にした「浜田到を語る会」の実施

令和3年2月から5月まで、かごしま近代文学館で「孤高の歌人 浜田到」展が開催されたが、当会はこの企画展を契機として発足した。以来、当会では四半期ごとに会員及び一般市民等を対象にした「浜田到を語る会」を実施してきたが、これを継続し深めていく。

3. 浜田到顕彰短歌大会の開催

短歌大会を開催し広く応募を募ることは短歌の啓発になるとともに浜田到の功績に関心を持つ契機となる。

全国に募ることで霧島市の文化振興や観光振興にも寄与し、地域の学校に募ることで文化啓発の場を提供できる。

4. 浜田到の歌碑建立の検討

当会の大きな目的の一つが浜田到の歌碑建立である。そのためには、場所、資金、工法、碑文の内容など検討すべき課題が多い。

文学碑は、歌人や作歌を顕彰するためのものであるが、地域の文化振興や観光振興にも寄与する。

課題解決のためには、こうしたことを行政や市民に訴え、協力を求めている。

今年度は第1回浜田到顕彰きりしま短歌大会を開催することができた。中央より選者を招き、霧島市長、霧島市教育委員会教育長臨席いただき盛会だった。

また、全国から多数の応募もあった。

例会は3回行い、それぞれで講演と浜田到の作品鑑賞会をおこなった。

また、新たに携帯のアプリを使って浜田到の作品鑑賞会をはじめた。場所と時間の制約をなくすことで多くの会員が意見交換を行う場を作ることが出来た。

事業の成果

浜田到の名と霧島の名を冠した短歌大会を行うことで、浜田到、霧島市の知名度を大きく上げることができた。

県下の他の短歌大会と比べても応募数、来場者数、選者の知名度、市長と教育長などの来賓と引けを取らない短歌大会となった。反響も大きく南日本、朝日、読売と各新聞各紙にも多く取り上げられた。特に朝日新聞の記事はデジタル版にもとりあげられ、全国から反響が寄せられた。応募者は全国にわたり1/3が県外からの応募であり、応募者には作品集とともに観光案内も届けることが出来て霧島市の観光にも寄与することができた。

短歌大会では、霧島市教育委員会様の協力で霧島市内の学校に応募をお願いし、多くの子供たちが短歌と触れ合う場を作る

という目的は、その応募数からも一定の成果があったと思われる。通常の活動として例会と新たにネット上にて浜田到作品の鑑賞会を立ち上げた。通常の活動もしっかりと行い浜田到への理解を深めていきたい。

事業内容

- 5月4日 第9回例会 国分公民館
令和6年度総会 令和5年度収支報告、令和6年度活動方針
講演 山下太吉氏「一葉と和歌生き方も触れる」
- 6月 第1回浜田到顕彰きりしま短歌大会 募集開始
県下短歌結社・団体、霧島市内学校など各所に募集チラシ配布、応募募集サイト、中央短歌誌に掲載、南日本新聞が記事掲載
- 8月3日 第10回例会 国分公民館
講演 保坂 直之氏「リルケと浜田到」
- 9月30日 短歌大会募集締切
応募数：一般部 176首、学生の部1,458首
- 10月11日 学生の部の第一次選考
学生の部1,458首から378首を選出
- 11月2日 第11回例会 国分公民館
講演 門田 夫佐子氏「再審事件と報道」
- 11月 南日本短歌大会等でチラシ配布
- 11月20日 短歌大会 最終選考
リモートで東京、京都在住の選者と入賞作品を決定
- 令和7年2月1日 第1回浜田到顕彰きりしま短歌大会
隼人農村環境改善センターにて開催、参加者150名
- 令和7年2月18日 第1回浜田到顕彰きりしま短歌大会
の反省会

自己評価

- 1 事業効果
期待していた以上の効果が上がった。
- 2 改善すべき課題
・物価高騰もあり作品集印刷費が膨らんでしまった。
・遠方の選者の好意に拠っているが、本来は正当な交通費など支払う必要がある。
・短歌大会を継続するための資金調達、経費削減をしなければならない。
・歌碑設立の具体化、ロードマップ作成をしなければならない。
- 3 予算執行
大きな変更を余儀なくされた。
当初は応募者を50名としていたが、有料応募者だけでも150名あり出詠料が大幅に増えた。また、物価高騰などにより、作品集印刷費など大会経費の増大もあり、当初予算に比べて総額が大きく増えることとなった。
- 4 今後の展望
第1回の短歌大会は初回にも関わらず県下屈指の規模と内容で開催することができた。この短歌大会を今後も継続していくことで浜田到と霧島市を大きく、そして長くアピールしていきたい。
また、子供たちへの短歌への関心を高め、衰退傾向の短歌人口の拡大をしていきたい。

5 その他

霧島市から支援を頂けたことは大きな契機となった。
もし支援を受けていなかったら未だに細々と勉強会をしているだけの会であったと思われる。
支援を生かし短期間で短歌大会まで開催することで、
当会は大きい飛躍をすることができた。

活動の様子



第1回浜田到顕彰きりしま短歌大会 (R7.2.1)



第9回例会 (R6.5.4)



第10回例会 (R6.8.3)

団体情報

- <団体名> 浜田到を語る会(暁の会)
- <代表者> 井口 松子
- <設立日> 令和3年7月5日
- <会員数> 29人
- <主な活動>
 - 講師を招いた研究会の開催
 - 浜田到の原稿、書籍、作品などの展示会
- <連絡先>
 - 所在地 〒899-4331 霧島市国分城山町7-10
 - TEL 080-3370-6037



小冊子発行 (R7.2)

霧島ミュージックフェア事業

＜霧島ミュージックフェア実行委員会＞

事業費：95,666円 市補助金：47,000円

目 的（背景・課題）

コロナの3年間に、コミュニケーション不足になった子ども達や学生達が活躍できる場所作りを行いたいと思った。

また、募金活動を行い赤十字や子ども食堂への寄附を行い、社会貢献をしたいと思いました。

事 業 内 容

学生のチャリティライブの実施

- ・日 程 令和6年9月29日
- ・場 所 サンあもり
- ・入場料 無料
- ・対象者 各学校の学生、小中学生

・内 容

- ①学生のチャリティライブ
- ②キッチンカーの出店のお手伝い
- ③学生達が作った商品を販売
- ④集めた募金の寄附(赤十字・子ども食堂へ)
- ⑤学生の司会やボランティアでの手伝い

自 己 評 価

1 事業効果

期待した効果が上がった。

2 改善すべき課題

まだまだ参加してくれる学生を増やし、学生達のイベントにしていきたいと考えている。

3 予算執行

大きな変更を余儀なくされた。

ボランティアの参加者の数が思った以上に少なかったことで、予算が少なくなった。

4 今後の展望

次回はもっと参加してくれる学生さんを増やして学生を中心にしたイベントに少しずつ移行していき、学生のイベントにしていきたい。

事 業 の 成 果

学生が体験するイベントに参加することで、経験値や物事の考え方を養い、自主性を育てることができると考えている。

また、ボランティア活動により、就職活動や進学時にボランティア体験の証を出して面接時に他の人達との差別化が期待できる。

子ども食堂への寄附を会場に掲載



ライブの様子



出演者の様子



団体情報

<団体名>霧島ミュージックフェア実行委員会

<代表者>木場 太一

<設立日>令和5年6月8日

<会員数>5人

<主な活動>

- 1 学生のチャリティライブ
- 2 赤十字や子ども食堂へ寄付

<連絡先>

所在地 〒899-5112

霧島市隼人町松永3034-2

TEL 080-5272-1678

農業クラブによる山間地域活性化事業

<永山農業クラブ>

事業費：180,322円 市補助金：86,000円

目 的 （背景・課題）

永山集落は、山間地域が空家と耕作放棄地が年々増えてきている。また、都市部では農業、田舎、自然に関心をもっている人が少なからず存在する。永山農業クラブは、永山集落の空き家、耕作放棄地を有効活用し、都市部の農業などに興味を持つ人達に拠点、活動の場を提供することで、永山集落に賑わいをとりもどしていく。

事業内容

【農業クラブ】

- ・毎週水曜日にクラブ員が集まり耕作放棄地を借り上げた共同農地で野菜作りを行った。
作付けした野菜:キュウリ、シシトウ、ナス、タマネギ、カボチャ、白菜、キャベツ、大根、春菊
- ・収穫した野菜の販売
収穫した野菜を近隣の直売所にて販売した。
菊芋130円×53袋=7,540円
- ・会員の所有する農地にて小麦、蕎麦を育てた。
播種、育成、収穫、脱穀、製粉まで一貫して行い、出来上がったソバ粉、小麦粉を農業体験で活用した。
- ・ピザ釜の作成
共同農地の一角にピザ釜を作成した。ピザ釜は田舎体験でピザの作成、焼き芋など多岐に渡って利用し好評を博した。
- ・耕作放棄地で花を育てる
耕作放棄地をを借り上げ、ヒマワリなどの花を植えて地域の美化に貢献した。
- ・地域活動
活動地域の上之段永山地区の道路周辺の草刈りを行い、イルミネーションを設置するなど地域の活性化に協力した。

【日帰り田舎生活】

- クラブ員外を対象に田舎体験会を月に1回開催し、多くの方の参加があった。子どもの参加も多く賑わいが出てきた。また、田舎ならではの催しを体験することで山間地域への親しみを醸成した。
- 4月：山菜とり、タケノコの瓶詰(参加19名)
5月：あく巻き作り、お茶作り(参加22名)
6月：アロマオイル作り(参加12名)
7月：春の収穫祭 ピザ、パン(参加21名)
8月：夏まつり バーベキュー(参加19名)
9月：油搾り、ツバキ、ゴマ(参加7名)
10月：稲刈り(参加8名)
11月：秋の収穫祭 新米、かるかん(参加16名)
12月：杵で餅つき、門松作り(参加13名)
1月：コンニャク作り(参加10名)

事業の成果

農業クラブの活動では、クラブ員が共同農地で野菜を作ることで、耕作放棄地を有効利用することができた。また、毎週水曜日に集まり、農作業をすることで山間地域に人が集う空間を作り上げた。地域の住民や周辺地域の方々も興味を持ってもらい、話しかけていただくなど閉塞間のあった集落の活性化の一助となった。

耕作放棄地にヒマワリやコスモスを植えたり、イルミネーションの設置など地域の美化、活性化に努め地域の方はもとより車で通る方々にも憩いの場を作り、アピールすることができた。

「日帰り田舎生活」と題し田舎体験会を毎月行った。このことで、あく巻き作りなど田舎ならではの催しを行い都市部の参加者と集落住民との交流を図ることができた。また、子ども達のいない集落に子ども達の声が響くことになり、住民の方々から喜ばれている。

ピザ釜を作成したことで活動の幅が広がり、子ども達が楽しめる催しを多く開催することができた。ピザ作りでは小麦を製粉し、こねて、発酵させ、ピザ釜で焼くことで、子ども達への食育に貢献することができた。他にも焼き芋、ナン、ガレットなどを田舎体験で大いに活用することができた。

自己評価

- 1 事業効果
期待した効果が上がった。
- 2 改善すべき課題
農業クラブ会員の増員ができなかった。
現クラブ員周辺への勧誘、田舎体験参加者への勧誘、チラシの配布・広告の検討
- 3 予算執行
多少の変更があった。
農業クラブで使用している倉庫、体験会会場の電気代が個人名義で計上できなかった。農地への獣害対策へ変更した。
- 4 今後の展望
農業クラブのクラブ員を増やし、さらなる活性化を行っていきたい。共有農業での畑作以外に休耕作地へ花を植えるなどして耕作放棄地の有効利用と山間地域の賑いづくりをしていく。
- 5 その他
初年度で手さぐりの状態だったが、田舎体験会が好評で遠方から参加してもらえた。地域の方々への周知もして喜ばれている。当初予定していなかった花畑作りも好評でさらに広げていきたい。

活動の様子



農業クラブ活動 植付



農業クラブ活動 管理



農業クラブ活動 小麦収穫



チラシを作成
し地域へ配布



田舎体験会 ビザ作り



田舎体験会 あく巻きづくり



田舎体験会 餅つき

団体情報

- <団体名> 永山農業クラブ
 <代表者> 福永 徹
 <設立日> 令和5年8月1日
 <会員数> 6人
 <主な活動>
 ・秋の収穫祭の開催
 ・日帰り田舎生活（田舎体験会）
 ・農業クラブ共有畑にて共同作業、毎週水曜日に共有畑で野菜作り
 <連絡先>
 所在地 〒899-4343 霧島市国分野口西18-28-8
 TEL 090-9574-0271

霧島市の多文化共生の推進に関わる事業

＜きりしまにほんごきょうしつ＞

事業費：457,352円 市補助金：157,000円

目 的（背景・課題）

在住外国人に関連する、日本語教育、国際交流、異文化理解等の活動を行うことにより、在住外国人を含む地域住民の相互理解に貢献することを目的とする。

少子高齢化の進展に伴い、霧島市内でも在住外国人の数は今後も増加する傾向にある。そのような状況の中、在住外国人の生活のベースである日本語・日本文化の理解や、地域住民との相互理解は益々求められている。これらの課題解決の一助となる事業を行っていききたい。

事業内容

1. カンパセーションナイトの開催

在住外国人と地域住民との日本語での交流会（毎月1回）、夏祭り・冬祭り各1回開催

2. 日本語サポーター養成講座の開講（第3期・第4期）

日本語サポータースキルアップ講座、日本語を教えるスキル講座、日本語や日本での生活でのサポートができる人材を育成するための講座

3. イベントの開催 短期的な開催（1日や短時間）のイベント

- ・ボウリング大会
- ・食べて知ろう 話してもっと知ろう（ネパール・タイ・中国編）

4. その他の活動

- ・SNS等での情報発信（団体HP・Facebook・公式LINE）
- ・定例ミーティング（月1回）
- ・活動写真展の開催（霧島市役所）
- ・第一工科大学日本語講座の留学生と川原小学校との交流支援
- ・企業での日本語講座の日本語サポーター活動
- ・議員と語りかいへの団体での参加
- ・初午祭への外国籍住民との参加
- ・南日本新聞社やMCT南九州ケーブルテレビの取材対応

事業の成果

1. 月1回の定期的な開催を継続できた。外国籍住民や日本人参加者が継続して参加しつつ、やさしい日本語での会話やお互いの文化や習慣の理解に務めた。

2. 受講生の満足度も高く、その後のサポーターとしての活動にもつながり、非常に意義のあるものとなった。初開催のスキルアップ講座では実際にやさしい日本語を使って外国籍の方々と話すことで実践ができ、学びの意欲を向上させていた。日本語を学びたいニーズに応えるための具体的な日本語教授法の講座では専門知識とスキルの学びを務めた。

3. スポーツや食を通じた交流では、地域の枠を超えた参加者や企業の協力があつた。家族での参加など盛況だった。地域の食を通じた交流ではリピーターも増え、様々な国やそこから来日した方々の背景を知る大変良い機会となった。開催も希望する声もあがつており、霧島市の社会資源を活用しながら交流を深めたり、学びを広げる機会になった。

4. 取材の依頼や対応を行い、南日本新聞等の記事につながった。地域での取り組みが少しずつ認識され、社会的な価値を生み出している実感があつた。

自己評価

1 事業効果

期待していた以上の効果が上がった。

2 改善すべき課題

カンパセーションナイトの参加者が固定化したり、参加者数が少なかったりした。曜日や時間帯の変化や、〇〇体験など新規性を実施して一般の方々や在住外国人が参加したいと思える企画作りをしていきたい。

3 予算執行

多少の変更があつた。

会員が伸び悩んだことや寄付金が少なくなかったことで収入が予定よりも少なかった。

4 今後の展望

日本語サポーター養成講座の継続的な開催、中心地以外での実施の検討。カンパセーションナイトの日程を変更し、参加しやすい工夫を行う。地域のニーズと状況に合わせた企画の実施をしていきたい。

5 その他

活動が継続されていくなかで、地域への認知が少しずつ広がってきている。外国人就労者、留学生、家族での滞在など様々なケースが増えてきており、彼らへの臨機応変な対応のために今後も動向を注視しながら企画と運営を行っていきたい。

活動の様子



工夫しチラシを作成「市民活動支援事業」を記載

霧島市市民活動支援事業

カンパセーションナイト
2024-2025

4月	5月	6月
19日 金曜日 PM6:00~PM8:00 入場無料 3F	17日 金曜日 PM6:00~PM8:00 入場無料 3F	21日 金曜日 PM6:00~PM8:00 入場無料 3F
7月	8月	9月
19日 金曜日 PM6:00~PM8:00 入場無料 3F	25日 日曜日 PM2:00~5:00 入場無料 3F	20日 金曜日 PM6:00~PM8:00 入場無料 3F
10月	11月	12月
18日 金曜日 PM6:00~PM8:00 入場無料 3F	15日 金曜日 PM6:00~PM8:00 入場無料 3F	15日 日曜日 PM2:00~5:00 入場無料 3F
2025年1月	2025年2月	2025年3月
17日 金曜日 PM6:00~PM8:00 入場無料 3F	21日 金曜日 PM6:00~PM8:00 入場無料 3F	21日 金曜日 PM6:00~PM8:00 入場無料 3F

080-6479-0857
kirimanhong@gmail.com
https://kirimanhongmy.carnet.site



外国人の居場所づくりに取り組む日本語教師

週末の夜、外国人と日本人が
テーブルを囲み、かたとの
本語で談笑する。霧島市の国分
公民館で月1回開かれる交流会
「カンパセーションナイト」。
在留外国人と地域住民をつな
ぎ、孤立化を防ぐ狙い。多様
なルーツを持つが日本語を気
軽に楽しく学べる居場所を整
え、「多文化共生社会の基盤つ
くりを担いたい」と意気込む。
開業後、留学したニッシー
ランドで外国人に日本語を教
える楽しさを知った。カンパセ
ーションナイトは当時参加してい
た夜、そこで漢字好きの外国

かお

本田 佐也佳さん

人出合い、見知らぬ土地での
生活が充実した。
帰国後は開業に戻り、日本
語教育能力検定試験に合格、日
本語教師として多くの外国人と
関わり、困りごとを聞く中、日

本が「異文化に寛容なよう、純
感な国」と感じた。
結婚を機に10年前、霧島市に
移住。ところが、異文化の市な
のに、日本語教室がないこと
に驚いた。だから自分で、有
志者とともに2023年1月、任意
団体「きりしまにほんごきょう
しつ」を立ち上げた。
霧島でも外国人の家庭が増え
ている。母語も日本語も満足
に話せないダブルミッドに
立がちな人、言葉の壁を
す。外国市民の1人への支援
と支援の大切さを訴え、少し
で力になれば。
今年初めて企画したボラン
グ大会は大成功。言葉の壁を
超え、一つになって盛り上がる
と喜ぶ38歳。（新聞掲載）



令和7年7月5日南日本新聞掲載

団体情報

<団体名>きりしまにほんごきょうしつ

<代表者>本田 佐也佳

<設立日>令和4年5月28日

<会員数>8人

<主な活動>

霧島市内において、在住外国人に関連する、日本語教育、国際交流、異文化理解等の活動を行うことにより、在住外国人を含む地域住民の相互理解に貢献する。

<連絡先>

所在地 〒899-4331 霧島市国分城山町4-15

TEL 080-6479-0857

くらしと、霧島と、事業

<Awesome City Project>

事業費：220,274円 市補助金：110,000円

目 的 （背景・課題）

中央児童公園が位置する国分中央地区は、マンションが増えるなど人口が増加しているエリアである。また保育・教育施設が集積しており、子育て世代にとっても働きやすく、周辺部に山や海など子どもを遊ばせるスポットも多いことから比較的子育てしやすい環境にある。一方、商店街の衰退や地域コミュニティの希薄化、コロナ禍による行動制限などにより、地区内におけるご近所付き合いが疎遠になり、高齢者、子育て世代、若者など年代による分断が起きている。そのため、まちなかでの暮らしや働き方の質を向上させ、地域住民の街への愛着や新たな魅力を創出することでインナーブランディングを高めることにより、効果的にエリアのプロモーションや情報発信につなげていく。

事業の成果

当初予定していた「定期トークイベント×マーケット開催」という内容が、会場の関係で実現することができなかったものの、霧島で暮らす人たちのご近所付き合い（＝顔が見える関係性）を作っていくという目的は達成できたものとする。特に、参加者が「今どんな活動をしているのか」を幅広く知ることができたのは新たな発見であった。トークイベントという、参加者は聞き手に回りやすく、参加者の活動や思いを聞き出すことは難しいが、皆がしゃべる機会があると、よりつながりの濃さ（＝コミュニティの深さ）を感じられることができた。

一方、今年度は試行錯誤しながらの実施となり、定期開催までには至らなかった。今後は、より参加しやすい設えを検討しながら、通り会との連携を視野に入れて活動の継続手法を模索していきたい。

参加者数：計58名

事業内容

■ トークイベントを実施する

日 程

第1回 令和6年11月10日（日）

第2回 令和6年12月15日（日）

第3回 令和6年12月28日（土）

第4回 令和7年1月12日（日）

場 所

中央児童公園

内 容

各回にテーマを設定し市内で活躍するメンバーを交えたフリートーク型イベントを開催する。イベント当日は、霧島の食材を使った軽食も用意しながら、話し手と聞き手に分けることなくコミュニケーションが弾む環境を用意する。

自己評価

1 事業効果

期待した効果が上がった。

2 改善すべき課題

当初予定していた会場（都市公園）が使用できず、マーケットの開催ができないこととなり、事業体系を見直す必要ができてしまった。一方、試行錯誤しながらも地域住民とコミュニケーションがフラットに取れる設えも企画実施できたので、来年度以降の企画づくりにいかしていきたい。

3 予算執行

2番と同じ

4 今後の展望

継続的に開催していく

5 その他

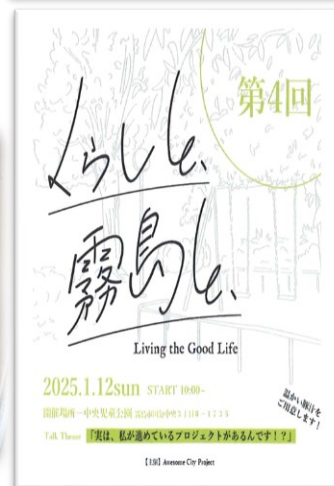
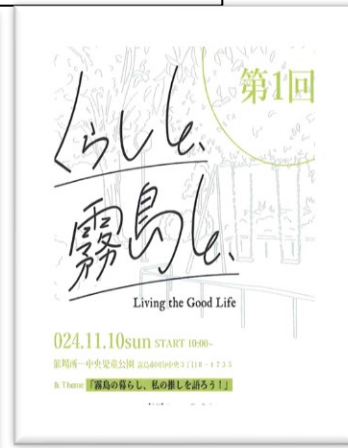
より地域に拓いた形での開催を目指していきたい。

（通り会、自治会、学校など）

活動の様子



開催案内



団体情報

<団体名> Awesome City Project

<代表者> 宮之原 優聖

<設立日> 平成28年11月1日

<会員数> 7人

<主な活動>

- ・地域活性化に関する活動又は事業を行うことにより、霧島市に賑わいをもたらす活動を行う。

<連絡先>

所在地 〒899-5106 霧島市隼人町内山田1-23-3

TEL 090-7151-1562

0歳からの音楽会in霧島事業

＜0歳からの音楽会in霧島＞

事業費：380,648円 市補助金：166,000円

目 的 （背景・課題）

本イベントは鹿児島にゆかりある若き演出家を県内外から招いて行うコンサートをメインに、アート体験型ワークショップ、ミニマルシェを同時開催する。
「演奏会」「クラシック」というハードルが高いと感じたり、地方だとプロの演奏を聴く機会も少なかったりする。そのような背景から、もっとクラシックを身近に感じてもらえるコンサートを開催し、子ども達が楽しめ、尚且つ芸術を体験できる機会をつくり、地域活性化に貢献したい。

事 業 の 成 果

延べ200名の参加者が集まり、多くの市民の方々に喜んでいただけた。南日本新聞やケーブルテレビの取材もあり、来場者が音楽を通して親子で触れ合う姿や、子どもたちが音楽に合わせて歌ったり、踊ったりする姿も見られた。イベント終了後のアンケートでは、「次回もあればまた行きたい」や「今回は行けなかったので次回は行きたい」という声も多かった。

事 業 内 容

・実施日
令和6年4月～令和6年9月
・内容(経過・概要)
イベント開催前の課題として、霧島市では乳幼児や親子(未就学児の子供をもつ親)が気軽に参加できるコンサートや音楽イベントが無く、当イベントを通して芸術文化を目的とした企画をした。
鹿児島の若き演奏家、アーティストをはじめ霧島市少年少女合唱団や霧島市在住の子どもたちも輝けるステージも用意し、プロの演奏家とのコラボという貴重な機会となった。
マルシェでは、霧島市の事業者を中心に14事業者が集まり「コンサート×マルシェ」という他ではない魅力的なイベントとなった。

自 己 評 価

- 1 事業効果
期待した効果が上がった。
- 2 改善すべき課題
多くの方に周知するには、広告費やチラシ等の印刷費等の予算を多めに設定する必要があった。
- 3 予算執行
大きな変更を余儀なくされた。
第1回目ということで、当日ぎりぎりまで来場者の人数が予想できず、会場キャパの80～90%を目標に準備を進めた。実際には、想定以上の来場者となり、当初予定していた内容と変更があった。
- 4 今後の展望
今後も霧島市のまちづくりのために優れた文化芸術に触れることのできる機会をつくれないか検討していきたい。
- 5 その他
参加者から多くの喜びの言葉を頂いた。南日本新聞へ掲載されたり、ケーブルテレビで放送されたりと反響もよかった。今後の活動の糧としたい。

活動の様子



令和6年9月5日南日本新聞掲載

団体情報

<団体名> 0歳からの音楽会in霧島

<代表者> 坂田 菜奈

<設立日> 令和5年12月1日

<会員数> 8人

<主な活動>

・市民が芸術文化に気軽に触れたり楽しんだりする機会を作る、イベントを通してクラシックを身近なものに感じる企画をし行う。

<連絡先>

所在地 〒899-4332 霧島市国分中央3丁目24-13

TEL 080-6405-5334

子ども達が自ら考え創造する学びの場づくり事業

＜ばんげあProject＞

事業費：119,374円 市補助金：54,000円

目 的 （背景・課題）

子ども達が主体的に考え行動しそれを経験として生かす場を作りたいと思い、こども店長のフリーマーケットを実施し、自分でつくった物や使わなくなった物に価値や働くことについて学ぶ場となっている。また、霧島市ではアートの敷居が高く気楽に誰でもが楽しめるものではない。そこで地元のアーティストに声を掛けライブやワークショップ展示を通してアートを身近に感じてもらえる企画を行う。

事 業 内 容

- ・5/5(日)
『こどもとおとなのフリーマーケット&マルシェ』
こども店長のフリーマーケット・書道体験・マーブルリング体験・体を動かすサッカー体験など
(参加人数:約200名)
- ・6/30(日)
『にこにこマルシェ』
音楽生演奏・ドラム体験・ピザ焼き体験・救急救命体験など(参加人数:約300名)
- ・8/25(日)
『こどもとおとなのフリーマーケット&マルシェ』
こども店長のフリーマーケット・米粉パンづくり体験
アロマやキーホルダーワークショップまで
(参加人数:約200名)
- ・9/15(日)
『にこにこマルシェ』
音楽生演奏・ドラム体験・楽器体験・ボードゲーム体験など(参加人数:約200名)
- ・12/8(日)
『こどもとおとなのフリーマーケット&マルシェ』
VR体験・楽器体験・木育など(参加人数:約400名)
- ・1月実施予定のにこにこマルシェは、会場と他マルシェの都合で実施不可

事 業 の 成 果

『こども店長のフリーマーケット』
子ども達が自ら考えたお店で実際のお金を使った売り買いを学び回を重ねるごとに新しいお店のアイデアを出してくれた。(例 お菓子釣り・射的・キーホルダーづくり・カードくじ など)

参加者の声

「こどもたちがお金を使う機会が少なくなっているので安心してお金の勉強ができる場所があって嬉しい」
「自分のお店を持つ、という意識が責任感を生み思っていた以上に意欲的に参加することができて成長を感じた。」

『アートや体験活動について』
普段体験できないような書道や絵画、楽器体験を通じて子供達が楽しい！やりたい！を体験する場となった。
また、アーティストと関わることで、鹿児島・霧島で活躍するアーティストを身近に感じ触れ合う機会を作ることができた。

自 己 評 価

- 1 事業効果
期待した効果が上がった。
- 2 改善すべき課題
なかった。
- 3 予算執行
大きな変更を余儀なくされた。
1つ1つのイベントの規模が想定より大きくなり、1つのイベントが実施できなくなってしまったため。
- 4 今後の展望
今後も色々な世代の方が来やすく、出店しやすいイベントを目指し、子ども達の想像力と行動力を刺激できるような体験をもちこんだイベントづくりをしていく。
- 5 その他
来場者プレゼントやボランティアさんのお手伝いなど、計画にはなかったが、他の人を巻き込んだイベントづくりをしていきたい。

活動の様子



団体情報

＜団体名＞ ぱんげあProject

＜代表者＞ 田畑 智絵

＜設立日＞ 令和4年6月1日

＜会員数＞ 5人

＜主な活動＞

＜子どもとおとなのフリーマーケット＞

子ども達の金銭教育を養い、SDGSやリサイクルに興味関心を持たせるイベントを年に3回開催。

＜ここにこマルシェ＞

子どもと大人が一緒に、身近に、アートに触れ合える場、年に3回開催

＜連絡先＞

所在地 〒899-4322 霧島市国分福島1丁目1-25-17

TEL 090-9896-7515

**令和6年度
市民活動支援事業成果報告書**

令和7年10月

〒899-4394 霧島市国分中央三丁目45番1号
霧島市役所 市民環境部 市民活動推進課

T E L 0995-64-0988 (直通)

F A X 0995-46-0566

E-mail simi-katudo@city-kirishima.jp